

巻頭のご挨拶

一般社団法人 北海道林産技術普及協会
会長 高橋範行



会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

平成27(2015)年の新春を会員皆様とご一緒にお慶び申し上げます。

また日頃より当協会の運営に対し、ご指導ご協力を頂き誠に有難うございます。

昨年は、当協会に於いては一昨年の60周年を終えた最初の1年目の年で、私が新会長に就任した名実共に最初の年でありました。アベノミクスの国策により、株価の大幅アップ、為替が120円前後まで円安となり、為替の影響を受けない国産材がその存在感を示した木材界では、ターニングポイントとなった年であったと思います。円安の定着、世界的木材資源の減少により外材現地建て価格の下方硬直性が露見され、最近では、価格競争力を持った国産材使用の木材製品の輸出も検討されるようになってきました。平成32年度を目標にした、国産材比率50%に確実に前進した年であったと思います。国産材を定着させるためには、まずは数量と価格の安定供給が不可欠となり、用途に合わせた使い勝手の良い更に低価格の製材、建材品の製品化が必要になると思います。この開発のために、研究機関としての北海道立総合研究機構林産試験場の役割は益々重要になってくると大いに期待しているところです。

年末に、今年を表す一字に『税』が選ばれていました。4月の消費税8%のアップにより、3月までの仮需が一巡した影響で4~9月の経済は停滞を余儀なくされ、更に10~12月に於いても回復が予定通りとならず、今年10月からの消費税10%にアップは、1.5年延期されたわけです。民間企業収益の回復が、一部大企業の社員の所得アップとなつたが、大勢の中小企業の所得アップとはならず寧ろ円安による物価のアップが先行し、国民生活に負担増を与えてるのは否定できません。次の消費税アップまで今年、来年と2回ベースアップの機会があり、幅広くその恩恵が行き渡ることを期待しています。

昨年の通常総会には、異業種からの講演を企画いたしましたが、今年の総会は、4月23日(木)に道都大学濱田学長にお願いして、『国産材時代の到来に即した北海道木材産業の展望』というテーマの基に、道内経済のアベノミクス効果の検証を含めて講演をお願いしております。年末総選挙は政権与党の圧勝に終わり、いよいよ地方再生の政策の基に、実弾の第三の矢が打たれることになると思います。このトレンドに乗り遅れないことが、北海道の再生に繋がることになり、その実施経過を含めた講演内容となることを期待しています。

今年の干支は、羊年です。群れをなす羊は、家族の安泰を示しいつまでも平和に暮らす事を意味していると言われます。但し12年前の羊年には、イラクのフセイン政権が崩壊した年でもあり、中東情勢が大きく変換した年がありました。どうも今年も、原油暴落が引き金となり、中東情勢及び中間選挙を終え残り2年の任期となったオバマ政権の動き、さらには中国、ロシアの動きには注視する必要があると思います。海外情勢次第では、日本のアベノミクスの効果がマイナスに働く可能性があることが危惧されます。おとなしい羊年とは裏腹に波乱含みの年になるかもしれません。

最後になりますが、当会は、今年も『北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場』と民間企業の架け橋として、木材普及活動をさらに活発化させる所存でございます。

本年も皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。